

外部評価委員長による令和4年度博物館事業点検評価の外部評価総括

令和4年度は、神戸市立博物館が掲げる「博物館使命の四大要素」、すなわち「歴史と文化の継承と研究」「歴史と文化への窓口」「人々とともに歩む」、「やさしさと安心の確保」についての評価は、自己評価では「歴史と文化への窓口」がA、その他がBであった。外部評価ではAあるいはBであり、特別展についてはSもあった。

令和4年度は、前年に引き続き新型コロナウイルスの流行が継続して行動制限がなされるなか、博物館の活動を行うことになった。展覧会・講座など普及活動は、様々な工夫を施しながらの事業遂行となった。特別展では、「大英博物館ミイラ展 古代エジプト 6つの物語」「スコットランド国立美術館展」「よみがえる川崎美術館展」が開催された。いずれも多くの観覧者に来ていただいたことは喜ばしい。

「歴史と文化の継承と研究」については、資料の受け入れ、保存、補修、展覧会準備、研究紀要執筆など研究成果の発表等が順調に行われた。学芸員による紀要等への執筆は、個人の努力に頼るだけでなく、組織として調査研究を十分に行うことができる体制を整備していくことが必要である。また、引き続き博物館資料を広く紹介し利用してもらうためのデジタルアーカイブズの充実が望まれる。

「歴史と文化への窓口」については、前述の特別展が開催された。「大英博物館ミイラ展」では、小学生などの観覧も多数あり、子供たちにも親しまれる展覧会としても評価できる。こうした展示は、幅広い教養を持つ人材を育てる教育効果と博物館を支える次世代育成としても期待される。「よみがえる川崎美術館展」は、川崎正蔵(川崎造船所創立者)のコレクションと彼が設立し現在はない美術館を復元展示するもので、たいへん充実したものであった。学芸員の調査研究の成果が大いに生かされ、市民にとっても近代神戸の歴史を考える良い素材となり反響も大きく入館者も多かった。

「人々とともに歩む」については、連携授業や学校来館などは以前と変わらない人数に戻ってきており、その努力は評価される。定員の制限なども行いながら「博物館を楽しむ」や交流員によるワークショップも開催することができた。ただ、SNS等による発信やホームページの構成などは今後も継続して工夫が必要である。来館者へのサービスとして駐輪場の問題があるが、これについては市の施策との調整も必要であろう。

「やさしさと安心の確保」については、昨年度来の課題であった空調環境の安定化では、2階コレクション展示室では改善が見られたが、1階神戸の歴史展示室の調整は不安定な状況がある。令和5年度には、外壁改修・給水管更新・熱源更新などの工事が行われる予定であり、今後の改善を待ちたい。

令和4年も新型コロナウイルスの流行は続き博物館にとっては厳しい状況であったが、職員あがて様々な工夫を重ねながら安全に事業を継続したことは評価される。市のしっかりした財政的措置のもとで、市民はもとより市外・県外、外国からの来問者をもひきつける魅力ある博物館として発展することを期待したい。

外部評価を行った委員

(令和5年度 博物館協議会委員)

[協議会会長(外部評価委員長)]

原田 正俊 関西大学文学部教授:日本中世史

[協議会副会長]

黒田 千晴 神戸大学大学教育推進機構グローバル教育センター准教授:比較国際教育

[協議会委員]

中井 伸夫 神戸市小学校教育実践研修社会科グループ担当課長(東町小学校長)

篠原 亮 神戸市中学校教育実践研修社会科グループ担当課長(湊翔楠中学校長)

井上 優 特定非営利活動法人こうべユースネット理事(財務担当)

高尾 ひろ子 神戸市婦人団体協議会理事

金井 茜 神戸市ネットモニター

柴田 健太郎 神戸労働者福祉協議会副会長(神戸市教職員組合執行委員長)

戸田 清子 奈良県立大学地域創造学部教授:日本経済史

馬淵 美帆 実践女子大学文学部教授:日本近世絵画

禰亘田 佳男 大阪府立弥生文化博物館館長:考古

大河内 智之 奈良大学文学部准教授:日本美術史

松岡 辰弥 旧居留地連絡協議会会長

歴史と文化の継承と研究

自己評価詳細

学芸分野における博物館活動を担うための根幹となっているのが本項目である。資料保存、調査研究などは地道な仕事でもあるが、継続することが肝要でもある。ただし、この点に照らせば、美術の目録が発行できなかったのは残念であった。学芸員一人ひとりが、肝に命じて、仕事に携わって行くことが望まれる。

資料の受け入れについては、神戸港に関する多くの絵はがきやリーフレットからなる中村コレクションの受け入れが出来たことは、その成果の一つとしてよいだろう。展示にとどまることなく、利活用の方向性も探って欲しい。また、受け入れ予定の資料については、計画性を持って従事して欲しい。

外部評価委員コメント

資料受け入れ

資料購入や寄贈などで、神戸に関係するものを充足できたことは評価できます。これからも神戸の博物館としての役割を果たしていくことを期待しています。

調査研究

神戸で活動した川崎正蔵のコレクションに重点をおいたことが評価できます。

・資料の購入では限られた予算の中、活用が見込める資料を充足できたことは、非常に評価できる。また、資料の寄贈についてもスムーズな受入により、受入後の速やかな公開を実現させたことは、大いに評価することができる。

しかし、資料保存、資料補修、調査研究については、限られた予算、限られた時間の中で厳しい状況ではあるが、残された課題の克服に向けて取り組みを継続していったほしい、特に、資料の保存については、貴重な収蔵資料、虫類等の被害により失われることがないように引き続き、日々の十分な状況監視と対応をお願いしたい。

【資料受入】

コロナ禍においても、博物館の収集方針や活用計画に基づき、展覧会・調査研究で活用が見込める資料・作品を購入できたことは評価できます。寄贈・寄託では神戸の歴史・古地図・美術に関する館蔵品・寄託品を拡充することができ、特に、「中村 善則氏収集資料」については、受入事務が適切に行われ速やかな公開が実現できたことは高く評価できます。

【資料保存】

本年度の課題と目標とした「環境変化に即応した対策の実施」、「館内に虫菌類が息しにくい環境づくり」は達成されており、その成果が表れていると思います。今後も様々な要因で問題が発生すると想定できますが、虫類0・菌類0の環境を目指して、館内の関係者全員で情報の共有と環境保全の継続をお願いします。

【資料補修】

補修資料の選定、資料の状態に応じた速やかな修理等については、確実に遂行されており評価できます。数年に渡り施工を要する資料の補修については、予算の確保と修理業者の状況把握が必要であり、目標達成までには厳しい現状があることを認識しました。

【調査研究】

○調査研究計画:次年度以降の展覧会に向けての事前準備が実施できたこと、自主企画特別展のスケジュール案を作成されたことは評価できます。

○館外資料調査:全分野において、各学芸員の担当分野に関する資料調査が実施できたことは評価できます。

○研究成果発信:執筆、研究発表の減少は、自主企画特別展に労力が振られたことで、学芸員の研究成果を発信する機会が減少したことは残念です。今後の計画に際しては、負担の軽減がされることが必要であると考えます。

○館蔵品目録・研究紀要・年報:紀要目録は博物館の使命にそった印刷物の制作ができたことは評価できます。年報については、今回制作ができなかったことの問題点を精査して改善が必要であると考えます。

建築構造や補修業者の状況については、どうしようもない部分もあるのではないかと(すぐに解決は難しいのではないかと)と思いますが、今後の対応策を検討してください。

研究成果の発信については、引き続き電子化の流れとあわせて努力していただけるとありがたいです。

・気候変動の影響で、今まで以上に天候の変化が激しい中、資料の保管に関しては難しい面もあるかとは思いますが、後世のため、細やかな対応をぜひお願い致します。

・ホームページのコレクションページも見やすく充実しており、丁寧な印象を受けました。

定例の温湿度・虫害の確認が実施されていることは、評価されることであるが、抜本的な対策も考慮していただきたい。展覧会に向けての調査研究は、計画的に進められるよう業務の合理化と学芸員相互の仕事の分担についての工夫が必要である。

資料受け入れについては、中村コレクションの受け入れができたことは大きく評価できる。神戸を深く知るコレクションの一つとして、展示のみならず、可能な範囲での効果的な活用なども当館の課題として望みたい。資料保存については現在のところ資料への被害はないものの、害虫の出現は博物館にとってきわめて深刻である。集中的かつ継続的な駆除計画が必要であると考ええる。また、特別展示室倉庫における冬期の結露、ならびに神戸の歴史展示室における温湿度の顕著な変化については展示資料への悪影響が懸念される。

なお、これらの問題については、収蔵、展示資料に被害を及ぼしてからではもはや手遅れとなるため、早急に適切な処置を行う必要がある。資料の補修については費用も高額であり、工期が長期にわたることが予想される。計画的な補修計画、予算執行が望まれる。

研究成果に関して、図録の解説、コラム、記念講演など、特別展、企画展に関連する調査研究活動が活発に行われたことは高く評価できる。他方、これら以外の研究成果が低調であったのはやむを得ないことであろう。

館蔵品のデジタル資料化、公開作業は継続して行う業務であると考えられるが、大きな特別展などでは準備期間、展示期間ともに、学芸員の方々の相当な業務増大が続くと考えられ、その間、館蔵品データベースの整理などに十分な時間が割けないことが容易に想像できる。未整理資料の解消に関しては、こうしたこともふまえたうえで計画を進めていくことが必要であろう。

外部評価コメントつづき

- ・資料受入では、700点近くにも及ぶ「中村善則氏収集資料」の受け入れから公開までがスムーズに行われており、安定した学芸活動の成果として評価される。
- ・資料保存では、収蔵区域内に害虫が発生したとのことで、カビ対策等注意が必要である。コレクション展示室の空調管理が改善されたことは喜ばしく、神戸の歴史展示室についても引き続きご対応をお願いしたい。
- ・調査研究では、各学芸員の博物館の担当分野に関わる調査等に加えて、個人のテーマ研究に関わる調査も盛んに行われており評価される。デジタル・アーカイブ(文化遺産オンラインでの当館所蔵品情報)へのアクセス数が減少したとのことだが、神戸市博はオンラインでの作品情報公開を館のウェブサイトやGoogle Arts & Culture 等でもされており、高精細な画像を見る上ではこれらの方が便利なので、そちらの利用が増えていることも考えられるのではないか。

限られた要件のもと、資料の受入、収集を進め、収蔵品の充実が図られたことは高く評価できる。一方、資料の保存については、収蔵資料に被害はなかったとされるものの、害虫の発生が抑えられなかったことは憂慮される事態であると考え。また、害虫だけでなく、ごみの処理が適切ではなかった事例や、結露がみられる箇所があるのとことであるので、適切な温度湿度管理や清掃の徹底など、引き続き対応が必要であると思われる。

コロナ後、博物館が通常の状態に戻り、業務多忙な中でも、調査研究活動が活発に行われた点、さらに大型の自主企画特別展が開催された点などは評価できる。しかし、論考の執筆や研究発表の減少がみられるなど、研究成果の発信には課題が残ると思われる。令和4年度に実施された調査研究の成果として、令和5年度に再び、論考や研究発表の件数が増加することが望まれる。いずれにせよ、調査研究、研究成果の発表は、学芸員の重要な業務の一環であると思われるので、適切に研究時間を確保することが必要であると考え。

- 新規の収蔵資料について、速やかに公開することは博物館として本来すべき事業ですが、実態はなかなか難しいことで、それを実現されたことは評価されると思います。
- 夏から秋に収蔵区域で害虫が発生したことについて、その要因等の分析はできているのかなど、その後の対応が気になりました。
- 補修が必要な資料について、高額な費用、複数年工期のため依然見通しが立っていないとのことですが、具体的な対応策は検討されているのでしょうか。今後、人口減少社会が進行すると税収減が予想されます。今のうちに補修しておかないと、ますます予算確保が困難な事態にならないかを危惧します。博物館事業全体を俯瞰したうえで、実現可能な具体策の検討などをなされてもいよい思います。
- 館蔵品データベースは計画のどの程度が達成されたのかが気になりました。

資料の購入、寄贈、寄託と、学芸員が販売業者や所蔵者との関係性を構築する中で多様な博物館資料を収集することができており、評価できる。資料保存については、歴史展示室の環境改善に向けて懸命にさまざまな対処がされている点について評価したい。施設老朽化による空調等の改修は神戸市全体として検討すべき事案であり、主幹課とも問題を共有して根本的な改修の計画を立てられたい。

資料補修について、当該年度の早い段階で事業を進める体制に転換されたことは、担当課における事業改善の具体的事例であり、評価できる。館紀要での調査研究・資料紹介、外部媒体での論文発表等の活動について、学芸員としての向上心と、地域研究者としての責任感の現れといえ、高く評価される。一方で、個人のモチベーションに依存するのではなく、組織として研究のインセンティブが働く体制作りも検討されたい(研究機関認定と科学研究費補助金の獲得、外部資金獲得の組織的支援など)。

資料受入

- ・中村コレクションについては点数も多かったが、円滑な受入ができ評価できる。

資料保存

- ・害虫の発生について、定期的に発生するようであれば根本的な解決方法を。
- ・結露は温湿度に影響を与える可能性が高いので、対処願いたい。

資料補修

- ・予算の関係上、なかなか難しい面もあると承知している。別の方法での予算確保(例えばクラウドファンディングなど)も考えてみては。

調査研究

- ・データベース化については、新たに受け入れたもの等もあり、全てを登録するのは簡単ではないと思うが、計画的に進めていただきたい。

歴史と文化への窓口

自己評価詳細

コロナ禍でありながら様々な対処策を講じ、大規模な海外展として「大英博物館ミイラ展」「スコットランド国立美術館展」を開催し、多くの来館者が観覧されたことの持つ意味は大きいと考える。また、開館40周年を記念して取り組んだ「よみがえる川崎美術館」展では、神戸の地にあった美術館の歴史や資料を紹介できたのは意義深いことであった。前後者を通じて資料の持っている”力”を再認識できたと考ええる。展示の補助装置ではあるが、音声ガイドの充実や、インバウンドなどに備えての多言語化、HPの充実が課題となろう。課題はあるが、この項目については、あえてAの評価を付しておきたい。

外部評価委員コメント

特別展

「よみがえる川崎美術館」が特に高評価です。川崎正蔵コレクションの価値をしるだけでなく、収集につとめた川崎氏の思いも伝わってくる展示でした。

広聴

GoogleフォームやQRコードを導入など、新たな方法を取り入れることで、より多くの意見や感想を寄せてもらうことができると考えられます。

・特別展においては、新型コロナウイルス感染症が収束していない中で、上質の特別展を実施したことは評価できる。また、予算規模に応じた来館者数に達しなかったものの、コロナ禍において展覧会を開催した意義は大きく、それが、アンケートの満足度にも表れている。
・広報については、HPやSNSを活用した広報活動は非常に有効である。特に、SNSについては、これまであまり来館していなかった若者層へのアプローチにつながり、来館者数の増加が期待できると思われる。今後もHPやSNS等の有効的な活用にさらに期待している。
・広聴については、記述式アンケートだけでなく、Googleフォームで実施するアンケートを作成したことは評価できる。PCやスマートフォンを利用したアンケートの採用により、アンケート集計の時間の短縮を実現することができ、スムーズなフィードバックが期待できる。ただ、高齢者層など、PCやスマートフォンを活用することが苦手な世代も多いため、記述式アンケートも選択できるハイブリッド型アンケートが望ましいと思われる。
・オリジナルミュージアムグッズの作成と販売を広報することにより、来館者数の増加にもつながると考える。今後は、HPやSNSによる広報も活用し、オリジナルミュージアムグッズを博物館の魅力の1つとしてほしい。

【常設展】

コロナ禍においても、感染予防策を講じて「神戸の歴史展示室」・「コレクション展示室」に多くの方が入場されたことは、積極的な広報の結果であると思います。年間を通して計画どおりに展示が実現でき、適宜に資料の展示替えも行え、館蔵品等の魅力を伝える機会となったことは高く評価できます。

【特別展】

コロナ禍の感染状況を踏まえて不安があるなか、大型海外展「大英博物館ミイラ展」「スコットランド国立美術館展」、開館40周年記念展「よみがえる川崎美術館展」を無事に開催されましたことは、大変多くのご苦労あったことと思います。来館者が安全・安心して鑑賞できる環境であったから、満足度の高い展示会であり高く評価できます。特に、「よみがえる川崎美術館展」は神戸にある博物館だからこそなした素晴らしい展示会であり学芸員の皆さまのご努力に感謝します。

【広報】

従来の紙による広報に、HP・SNS等を活用した効果的な広報と緊急性のある情報発信ができたことは高く評価できます。昨年デザインを一新した博物館だよりについても、見やすく、分かりやすい紙面に改善しており、タイムリーで有効な広報ができており評価します。

SNSの発信を意識されて、フォロワーが増えたことはとても良いことだと思います。広報誌の内容も発信したりQRコード形式のアンケートと連動させることで、活用はもっと進むと思います。SNSは若者(学生)をターゲットにしていくといいですね。

・特別展の開催により、活気のある博物館を味わう事ができ、いよいよ、コロナ禍から通常の生活への一歩だと、私自身感じた。来館者を見ても、様々な年齢層やグループがあり、博物館という文化施設がコミュニケーションの場所でもある事を再確認した。事前予約制に関しても、この数年、一般的になっている方法である為、個人的には、問題なかったが、不慣れな世代や、気軽に立ち寄りたい場合のシステムもぜひ平行して、誰もが入りやすい施設であってほしいと感じます。

大英博物館ミイラ展では、若い世代が多数観覧していることは評価される。よみがえる川崎美術館展は、魅力的な内容であり神戸の近代史を語る上でも重要なテーマであった。こうした自主企画を今後も考えていっていただきたい。

常設展について展示室内の湿度が安定せず、展示可能な資料が限られている状況であることは大変残念であるし、また大きな懸念材料でもある。とくに近世の展示については、こうした不安定な展示環境が作品に悪影響を及ぼすことのないよう、早急に改善していくことが重要な課題であろう。また、近代神戸の展示についても深刻な懸念材料があるため、安定的な展示環境への改善・維持が望まれる。近代神戸に関しては、各年齢層を通じて「海・港」を核とした神戸の歴史をより分かりやすく伝え、鑑賞する人の関心や興味を惹きつけるような展示空間を今後も期待したい。

特別展「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」について

想定していた入館者数には及ばなかったものの、イブニングレクチャーや特別鑑賞会などの関連事業が好評であったことは評価できる。とくに広報展開に力を入れ、入場者の伸びにつながったことも評価できよう。ただ、混雑状況の情報伝達や入場システムに関しては改善を求める意見が多く、課題が残ったと思う。

特別展「インド近代絵画の精華―ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティー―」について

これまで日本では見ることのできなかつたインド近代美術を紹介することができたことは意義深い。当館として未経験の分野を扱う展示であり、インド側とのコミュニケーションは不十分であったためであろうか、展示作品に関する情報が開催前に十分に把握できなかったことは残念であり、この点は課題を残したといえる。しかし、展示作品の水準が高く、来館者の高い満足度を得ることができたことは評価に値する。

特別利用等において所蔵資料の画像利用・画像提供の件数減少が見られる点については、原因を精査する必要があると考える。広報面では新しく導入したInstagramでフォロワー数が増加し、新たな層の関心を集めたであろうことは大いに評価できる。規制が緩和されたとはいえ、依然コロナ禍が続いているため、今後も迅速にHP、SNS等を用いて情報発信するとともに、若い層も含め、より多くの人々に当館に関心をもってもらえるよう、効果的な広報が実施されることを期待したい。

外部評価コメントつづき

- ・常設展のコレクション展示室で、入場者の数・率とも大きく増加したことは大変喜ばしい。充実した展示内容であるので、今後も広報活動等により、一層の増加を目指していただきたい。
- ・特別展では、大型海外展2つの実施に加え、自主企画展「よみがえる川崎美術館展」を成功させたことが高く評価される。後者は、神戸という土地、美術館・博物館という存在、美術作品の意義等、様々な観点から多くのことを教えられる展覧会であり、評価者の知己の美術史専門家の間でも大変高く評価されていた。
- ・広報、広聴、ミュージアムショップとも、新たな試みを導入してそれぞれ着実に成果を挙げている点が高く評価される。

コロナの影響がある中で、「大英博物館ミイラ展」、「スコットランド国立美術館展」などの海外大型特別展を滞りなく開催し、多くの来館者を得たこと、さらに学芸員の研究成果をもとに自主企画展「よみがえる川崎美術館展」を開催し、目標来場者数を上回るとともに、学術的にも高い評価を得た点は特に高く評価できる。コロナの移行期において、様々な対応が求められる中、特別展の開催に臨機応変かつ適切に対応された関係者の方のご尽力を評価したい。

広報について、中高年層にとって親しみやすい紙媒体での広報に加え、デジタル媒体（HP、SNS）での発信にも力を入れておられる点が高く評価できる。若者や子供たちなどに様々なデジタル媒体を通じてアプローチしていくことは、教育及び芸術の振興という意味で極めて重要であると思われるので、地道に発信を拡大していただきたいと思う。Instagramのフォロワー数が増加傾向にあるものの、博物館の規模から見るとまだまだ極めて少数であると思われる。Instagramのインプレッション数を確認するためには、ビジネスアカウントへの変更が必要とのことであるが、必要な投資であると思われるので、ぜひ導入していただきたい。

-
- 昨年、兵庫県が兵庫津ミュージアムを開館させましたが、関連施設ということで、何か連携イベントのようなものの計画はあるのでしょうか。ないなら、連携行事を検討されてはいかがかと思えます。
 - 「ミイラ」展は見学に行かせていただきました。平日でしたが、開館前に行くとき既に行列ができていて「盛況ぶり」が伺えました。見学中ミュージアムスタッフに質問をさせていただきましたが、適切な対応をしていただきました。展示内容、図録共に大変興味深いものでした。ありがとうございました。閉幕直前に行った人の話によると、図録は完売したのではなかったでしょうか。そうなら、そのことは評価のなかに入れても良かったのではないのでしょうか。
 - アンケートをとっておられますが、その意見が館の運営に反映することはあるのでしょうか。
 - ミュージアムグッズで「測量野帳五色塚古墳」を文化財課と連携して販売促進に努められたようですが、具体的にどの程度反映したのかが気になりました。
 - 普及事業で「・・・オンライン申込の難しい層が一定量あるため・・・」と記載されていますが、この表現は変えた方がいいと思います。

常設展のうち地域文化財展示室の展示やコレクション展示について、分野ごとに多数の展示替えを行っており、コレクションを活用した市民への鑑賞・学習機会の提供という点で十分な責務は果たされている。コレクション展は神戸市博コレクションの魅力伝える重要な位置づけにあると拝察するが、ホームページのトップページでは、特別展や企画展の情報が埋もれて気づきにくい。HPの構成上も、コレクション展等の情報に行き着くのがやや難しい（展示の存在を知る人は情報に到達するが、そうでなければ気づかない）。学芸員の顔の見える展示であり、その魅力の発信が常設展への来室者増加につながるのではないか。

特別展について、本年度では自主企画である川崎美術館展の開催について、特に評価できる。神戸市立博物館であればこそ開催の意義のある内容であり、資料集約の困難さにひるまず果敢に取り組んだことに敬意を表したい。なお、主担当者が開催前に異動となったこと経緯について事情を知り得ず、また人事に関する事柄は各自治体の高度な判断であることではあるが、決して望ましいものではなかったであろう。引き継いだ学芸グループの負担も大きなものであったと思われるが、高い水準で展示を完成させたことについても、敬意を表したい。

広報について、SNSの積極的・戦略的利用による利用者の増加傾向にあることについて、評価できる。

常設展

- ・展示の入替等、計画的に行われていたのはよかったと思う。
- ・ワークショップについては、コロナ禍の影響もあったと思う。今後に期待。

特別展

- ・コロナ禍の中、運営は難しく、ご苦労も多かったのでは、と思う。
- ・ラインナップの多岐にわたりよかったと思われる。特に地元企業と協力して行われた川崎美術館の特別展は、今後の新たな展開にも期待が持てる。

企画展

- ・特に問題なし

特別利用等

- ・画像利用・提供の件数が減少している件だが、「待ち」の側面が強いので評価は難しい。

広報

- ・HPへのアクセス件数、SNSのフォロワー数増加等、着実に結果が出ている。

広聴

- ・特に問題なし

ミュージアムショップ

- ・特に問題なし

人々とともに歩む

自己評価詳細

コロナ禍ではあったが、感染症対策に工夫をこらしながら、着実に各種普及講座に取り組んでいる点は評価に値する。また、神戸市イベント管理システムの導入により業務の効率化が進められている点も評価したい。ただ、入力ができない方々への対応も検討する必要がある。「人々とともに歩む」のは、そういった意味も内包していよう。博学連携についても旧状に復しており、十分な対応ができているものといえる。博物館の存在意義や活動を認知してもらうために、ここに掲げた項目と併せて、工夫を重ねながら今後とも継続していく必要がある。

外部評価委員コメント

普及事業

参加申し込み方法の個別対応、リマインドメールの発信、現地見学でのイヤホンガイドの実施、といった参加者への配慮や現地集合による経費削減が評価できます。また、対応ができるのであれば、当日受付も検討されてはどうでしょうか。

博学連携

学校来館が増え、博物館としての役割を大きく果たしていると考えます。連携授業に関しても学習効果が大きいですが、学校からの申し込みが過多の状態ではないでしょうか？保護者の経費負担軽減が求められる中、今後は、直接来館より出前授業形式のニーズがさらに高まると予想されます。何か検討ができればお願いします。

・連携授業については、コロナ禍でありながら、感染拡大防止策を実施しつつ年間100回以上実施できたことは非常に評価できる。
・学校来館についても大幅に数を増やし、オリエンテーションも再開できたことは、よかった。今後も博学連携をさらに推進していった欲しい。
・新型コロナウイルス感染症の拡大により、学習支援交流員の活動が制限されたことは、仕方がないことだが、今後は、制限がなくなっていくことから、学習支援交流員や活動アドバイザーの満足度を上げるような活動を期待している。

【普及事業】

コロナ禍で多くの行動制限・制約があるなか、感染防止の適切な対策を講じて、一般向け・子ども向け普及事業を開催され課題と目標を達成されたことは高く評価します。神戸市イベント管理システムを導入しての申込方法のオンライン化、神戸市総合コールセンターを利用した電話受付、リマインドメールの送付、現地見学時に参加者へのイヤホンガイドを配布しての解説など、ハード・ソフトの両面で申込者・参加者に配慮した対応は高く評価できます。

【博学連携】

○連携授業:コロナ禍での連携授業は、学校との緊密な連携が必要であり、大変ご苦労されたことと思います。感染症予防対策を施しての課題と目標の達成であり高く評価します。
○大学との連携:コロナ禍であり、対面での講義の実施には感染予防の面ご苦労があったと思います。受講生からの多くの驚きや学びがあったことはとても評価できます。
○博物館実習:実習生の応募が多く感染症対策もあり、ご苦労が多かったことと思います。実習課題で実習生はもとより学芸員の皆さんも大きな学びとなったことは評価できます。

【学習支援交流員】

○コロナ禍で学習支援交流員の活動が制限される中、定例会を例年通り開催されたこと。ワークショップ・勉強会では感染予防に取り組んで開催されたことは評価できます。

【地域連携・共済事業】

○コロナ禍で制限・制約あるからこそ、地域の関係団体との連携・他館との連携は必要であり、博物館の役割は大きいと思います。

学校の声聞いていても学校への出前授業の人気は根強いので、引き続きこの取組はお願いしたいです。

地域との連携を長田区のように各区で実施できれば、さらに身近に感じてもらうことにつながるのではないのでしょうか。

・子供向けの様々な講座は、保護者や兄弟、お友達など、博物館が身近な存在になる1つの良いきっかけであると思う。その中で、申し込み者数に対して、参加者が限られてしまうのは、これからの利用者を増やす点では残念に感じる。参加できれば、みなさん満足度も高くご利用頂いているようなので、人員、予算、時間等の許す限り、できるだけ多くの参加者を受け入れてあげると良いと感じた。

コロナ流行下における普及事業遂行は、たいへんであったことがわかる。こうした状況下、いくつもの企画が進められたことはよるこばしい。好評であった浮世絵の制作などは、今後も継続的に実施しても良い企画と考える。

連続講座についての「統一テーマを設けてほしい」という要望については、検討の余地があると思われる。大学の公開講座などでもみられるが、こうした要望を反映し、統一テーマを設定したうえで各研究の成果発表を行った方が、参加者には講座全体のイメージを掴み易いのではないだろうか。「どのような統一テーマで連続講座を企画してほしいか」などの項目をアンケートに加えて、参加者の関心をきめ細かく探っていくことも、今後の課題ではないだろうかと考える。

効率的な新しいシステムの導入によって事務的な効率化が図られている点は高く評価できる。さまざまな工夫や技術的な改善を通じて、人々にとって当館がより身近な存在になることが期待されるが、ただ、資料にあるように、入力ができない方々も一定数存在する。効率化の一方で、こうした方々を置き去りにしてしまうことのないような「人に優しい博物館」をめざすことが求められる。

当館が今後も神戸の重要な「知の拠点」であり続けていくとともに、「人に寄り添う」「人に優しい」博物館であり続けていくことを期待したい。

外部評価コメントつづき

・いずれの事業も、感染症対策をとりながらコロナ禍前の状況に復しつつある様子がうかがえ、ご尽力に頭の下がる思いである。諸制限の中でも充実した事業を実施されている点が高く評価される。

コロナ禍を契機に、オンラインでのイベント管理システムを新たに導入し業務効率化が図られた点は高く評価できる。また、コロナの感染拡大防止措置を取りつつ、博学連携事業を可能な範囲で着実に継続されたことも素晴らしい。連携授業の申し込みが非常に多かったことから、コロナ禍で中断せざるを得なかったこれらの活動が学校から大いに評価されており、ニーズの高いものであることの証左であると思われる。コロナ禍の厳しい時期に粘り強く創意工夫を重ねて、普及事業、博学連携、地域連携等を継続するにあたり得たノウハウを今後も生かしていただきたい。

○ギャラリートークですが、当館でもたまたま来られた方が参加するので、興味深い指摘だと思いました。なお、展示解説を講演会場で実施する場合はそれを聞きに来られるので、「入館者の意識」というものが垣間見ることができるのかも知れません。

○多くの連携事業を実施されている点は素晴らしいことだと思います。

○神戸市博に留まらず、コロナ禍における博物館実習の受入制限の結果、学生の学芸員資格取得の状況はどうなったのかが気になりました。

○地域連携・共済事業として、多くのところに向向いていかれる点は、神戸市博のアピールという点で意義深いものと思います。引き続き、積極的に取組まれることに期待したいと思います。

学校との連携授業を積極的に行い、市域の多数の学童・生徒の学びの機会を作り、学校教育と社会教育の連携を多数図ったことは、博物館の必要性を自ら明確にするものであり、その意義は特筆すべきものである。

普及事業

・コロナ禍で運営はご苦労が多かったと思う。

・障がい者、未就学児への参加呼びかけをよろしく願いたい。

博学連携

・博物館実習については、受け入れる側も大変だとは思いますが、学生ならではの視点など、当館にとっても有意義な面が多いと思われるので、今後も継続していただきたい。

学習支援交流員

・ほぼ通常開催が見込まれる本年度に期待。

地域連携・共催事業

・特に問題なし

やさしさと安心の確保

自己評価詳細

求められる役割は、果たせたと考えられるが、来館者サービスの向上や施設・設備の抜本的な改善等には結びついたとまでは言えない。予算確保を伴う事項もあるが、日々業務の中で来館者の目線に立ったサービスの提供や環境の維持・改善に結びつくよう、できることを着実に進めていく必要がある。

外部評価委員コメント

・ミュージアムショップ、カフェでは、博物館の入場券の半券を提示することにより、10%割引となる多くの飲食店とのタイアップ企画や、飲食店を紹介するマップの作成などの取組は、博物館だけでなく、地域全体の活性化にもつながる、良い取組みであり、非常に評価できる。今後も博物館のみならず、神戸の魅力をさらに発信してもらいたい。
・特別展の内容とコラボしたメニューを提供し、来館者が特別展と合わせて楽しむことができる企画も素晴らしい。今後は、SNS等での発信も併せて実施できれば、さらなる効果が期待できるのではと思われる。
・予算の確保が難しい中で、工夫をしながらできることを着実に進めていることは評価できる。大幅な改善を実現することは難しいことだと思われるが、来館者の目線に立ったサービスの提供や環境の維持・改善につながるよう地道な努力と工夫を重ねていって欲しい。

- 1.すべての点において真摯に取り組まれている様子がうかがえます。大変ですね。
- 2.管理システムの導入についてゆけない人もいます。広報紙「こうべ」に掲載もされていますがもう少し情報があればと思います。

【施設管理】

博物館の格調ある外観と内装は長年多くの市民に親しまれたものであります。神戸市民が愛し・誇りとする博物館の歴史的な価値を後世に継承するため、次年度の大規模な改修工事の実施に至ったことは高く評価できます。

【インフォメーション、ショップ・カフェ】

○インフォメーション:博物館を訪問して最初に出会うのがインフォメーションスタッフです。来館者の緊張を取り除く笑顔とやさしい対応は、親しみと安心を感じました。

○ミュージアムショップ・カフェ:鑑賞後の充実感・満足感を感じるのが、ミュージアムショップとカフェであると思います。工夫を凝らしたメニュー、地域と連携した魅力ある取り組みは高く評価できます。来館者と博物館を結ぶ大切な「場所」と「時間」です。これからも心の豊かさを感じられる魅力ある施設づくりをお願いします。

【警備、清掃】

博物館において目立たないセクションですが、とても重要な業務です。不測に備えた警備・きめ細やかな清掃の実施は、強い責任感があってのことで感謝いたします。

【緊急時対応】

想定外の事態が発生した時に、職員・スタッフがどう対処すべきかを常に意識しておくことができたことは評価できます。阪神淡路大震災の経験職員が少なくなっており、当時の経験を伝承することが大切であると思います。

警備や緊急時の対応について、自己評価は厳しくつけておられますが、その意識に敬意を表します。いつもありがとうございます。

・特別展の開催中に、ミュージアムショップ、カフェが大変にぎわっており、活気があった。カフェへ入れない利用者もいたので、全体的に、休憩をするスペースは、ベンチ等、もう少し増やしても良いかと感じた。滞在時間が増える事で、より、ゆったりとしたプランで観賞でき、満足感につながると思う。

次年度の大規模補修に向けて修理箇所点検が求められる。インフォメーション・ショップ・カフェなどの運営の工夫は評価できる。

施設管理に関しては建物、設備自体の老朽化が進行していること、湿気など展示室における不安定な環境など早急に解決すべき課題も多い。当館の歴史文化的価値が損なわれることのないよう、将来に向けて継続的な補修計画の立案と実施を求めたい。

ミュージアムカフェについては、近年、多くのミュージアムカフェのメニューにみられるように、当館においても、特別展に関わりのあるイギリス、スコットランド、インドなどに因んだコラボメニューを企画し、提供した。展覧会鑑賞後のこうした「楽しみ」も、来館者が美術館を身近に感じる要素の一つであろう。旧外国人居留地のなかにあるという立地を生かし、周辺の店舗との魅力的なタイアップ企画などをこれからも期待したい。

清掃については、子どもが多い企画展など、企画展の内容や来館者の年齢層によって、それぞれのニーズに合わせた清掃業務を行うことが必要であろう。コロナ禍が続くなか、来館者の清潔志向や殺菌に対する意識も格段に増していると考えられる。今後、規制が緩和されていくなかで入場者や各講座等での参加者も増加していくことが予想されるため、引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の継続的な防止策を図り、徹底した殺菌、丁寧な清掃を実施していくことが求められよう。

外部評価コメントつづき

・施設管理で、次年度予算で大規模改修工事が認められたことは喜ばしく、設備面で一層の充実が図られることが期待される。

博物館建物自体が文化財であり、施設の維持・改修に必要な予算措置と対応がなされることが不可欠であると考え。その意味で、設備総括管理委託業者との連携により、計画性をもって設備保守点検、更新等が実施できた点は評価できる。また、次年度予算要求により、改修工事の予算が認められよかったと思う。インフォメーション、ミュージアムショップ、カフェ、また警備・清掃、緊急時対応などのソフト面でのサービスの提供や改善に不断に取り組んでいる点も大いに評価できる。

○施設管理の増額要求は厳しいでしょうが、要求しなければ必要性は認識されないでしょうから、今後も継続して要求していただきたいと思います。

○ミュージアムカフェでのコラボメニューの提供は素晴らしいことだと思いました。見学の際には見落としてしまいました。残念！

○阪神淡路大震災を知らない世代が大半という点は神戸市役所の方からも聞いている話です。神戸市全体としての取り組み、博物館固有の取り組みを1月上旬にでも計画されてはいかがでしょうか。

加湿器の更新があったとのことで、施設を稼働させながらの大型機器の取り替えを計画的に進めたオペレーションは優れたものといえる。展示室の空調の不調についても、施設管理の範疇であり、資料保存のための環境整備にあたられたい。

緊急対応における大規模災害への対応策について、神戸市博の阪神淡路大震災の被災経験と対応は、東日本大震災を経て、なお一層重要な歴史的経験として位置づけられ、日本の博物館行政・文化財行政の上で強く意識されている状況にある。ぜひ、博物館としてそれらの歴史遺産を残し、継承し、記憶を共有化することについて、退職職員へのヒアリング等も含めて努められたい。

施設管理

・特に問題なし

インフォメーション、ショップ・カフェ

・特に問題なし

警備、清掃

・特に問題なし

緊急時対応

・阪神淡路大震災における経験等の伝承は、当館に限ったことではないが課題。